

新シリーズ超音波診断装置の先駆けとなるプロサウンドF 7 5

[2010.07.16] 超音波診断装置

アロカ株式会社（本社：東京都三鷹市牟礼
6-22-1 社長：吉住 実）は、プロサウンド
Fシリーズ最初の製品となる超音波診断装置
プロサウンドF 7 5を、7月16日（金）、
17日（土）の両日、東京国際フォーラムで
開催されるALOKAフェア2010で発表
しました。

アロカ株式会社は、1960年に世界で初めて
超音波診断装置を発売致しました。それ以来、
当社はカラードプラを始めとして数々の画期的な
新技術を開発し、業界の発展に貢献してまいりました。
2010年は超音波診断装置誕生50周年であると同時に、
当社創業60周年でもあります。この記念すべき年に
新しい価値を提供する超音波診断装置プロサウンドF 7 5を当社展示会（ALOKAフェア2010）にて展示することはこの上ない喜びです。プロサウンドFシリーズのFには、当社のブランドステートメント「見えないものを見る/変化を照らす」に沿って、Foresee（予見する、予感する）、Foresight（洞察、予感、予兆）など、“見えないものを見る”をより確かに高い次元で実現するという思いを込めました。



プロサウンドF 7 5は次の三つのコンセプトに基づき開発いたしました。

[F I T to your specialty]

Facilitate Workflow：日常検査をもっと快適に

より自然で無理のない体勢で検査を行うために超音波診断装置はどうあるべきか。プロサウンドF 7 5の開発は、その条件を探ることから始めました。モニターと操作パネルの可動範囲はどれくらいあるべきかを検討しました。筋電計を操作者に取り付け、実使用と同じ条件で筋負担を計測する実験を繰り返しました。このように検査の実態を踏まえた上で、最適な解を求めました。それは、ユーザーの利便性を中心に考えたアプローチです。職業病として問題になりつつある、検査者の筋骨格系障害リスクの軽減に貢献するものと確信しています。

ルーチン検査をよりスムーズに進めるためのもう一つの課題は、より少ない操作で求める結果を得るために超音波診断装置にできることは何かということです。単なる自動化では

なく、ユーザーの使い方を見守って進化してゆく、短い時間で使い込んだ道具のようになってゆく。プロサウンドF 75がめざしたのは操作を意識せずに検査に集中できる、そんな超音波診断装置です。

Investment Return : 投資を担保する広い臨床応用と環境配慮

臨床適用範囲を高める要素は3つ、様々な対象臓器に対応するバラエティ豊かな探触子群、診断に必要な臨床分野ごとの計測やレポート、それに様々な場所にフィットし運用できるコンパクトな筐体。それらを高い次元で融合しました。汎用性の高さを追求した超音波診断装置は、様々な検査・運用場所で活用できる投資効果の高い超音波診断装置プロサウンドF 75として結実しました。単に導入時の条件に注目するのではなく、長期の運用を見据えて快適にご利用いただく為にはその先のコストもご考慮いただく必要があります。プロサウンドF 75は導入、運用、長期管理、全てのフェイズでコストを削減するために様々な工夫を盛り込みました。

True Diagnostics : 効率的で正確な診断に求められるもの、

画像診断装置として求められるものは、単に綺麗な画像ではなく診断能力の高い画像を描出する性能です。そのために私たちは音の出入り口である探触子から画像構築を担うエンジンまで、最先端の技術を投入し、妥協を排してプロサウンドF 75を設計しました。アロカが世界で初めて開発したカラーDプラは、以降、様々な技術革新によって進化しました。プロサウンドF 75は、その進化の最新形である eFLOW+ (イーフロープラス) が微細な血管を流れる血流を速度に関わらずダイナミックに感度良く描出します。また全素子送受信技術によって、表在から深部にいたるまで均一で力強い画質が得られます。安定した高画質が効率的で正確な診断に大きく貢献します。

アロカ株式会社社長 吉住 実は、「今までアロカがユーザーのご要望にお答えすべく努力してきた一つの到達点プロサウンドF 75だと自負しております。本当に使いやすいとは一体どんなことなのか、ユーザーの立場に立って一生懸命考え、数年前から実験を繰り返してきました。実際にユーザーの負担を軽減できることが実証でき、大変うれしく思っています。超音波診断の核である画像については、様々な患者様の条件に依存しないで安定的に診断能力の高い画像を描出することをめざしました。今までご苦勞なさってきたユーザーの方々が、このプロサウンドF 75で検査が楽になった、診断の確実性が増した、と実感していただければ幸いです。」と述べています。